

研修主題

『自分の考えをもち、表現できる児童の育成』—主体的な交流活動を取り入れた国語科指導を通して—

内容：低学年ブロック代表授業について

低学年ブロック代表授業 2年3組 阿久津千佳学級 国語『スイミー』

今の2年生の子どもたちは・・・

◎自分の意見と、同じ意見であることを判断することができる。

▲自分の意見を言うだけで、ほかの意見を聞いていない児童がいる。

2年生の考える

「主体的な交流活動を取り入れた授業づくりをすることで、1年後にこんな姿が見られたらいいな・・・」
他者の意見と自分の意見を比較しながら話を聞くことができる。

授業の視点

【見取る場面】スイミーがしたこと、一番大事なことを考える場面（自力解決）

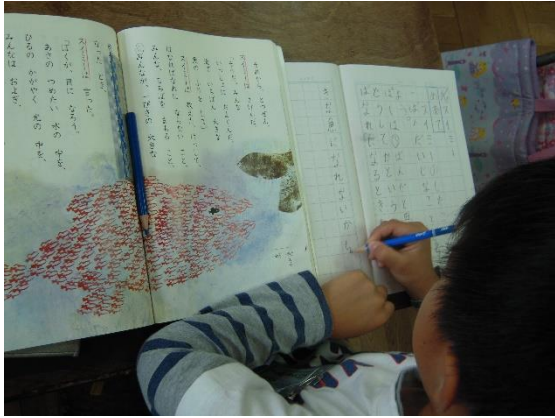
【手だて】選択肢を提示し、名前マグネットで表示する。

【児童の姿】全員が自分の考えを表現することができるであろう。

授業の展開



【つかむ・見通す】・・・大きな魚を追い出すために、スイミーは何をしたのかを問い、本時のめあて「スイミーがしたこと—ばんだいじなことをかんがえよう。」をつかむ。
○前時の内容がしっかりと押さえてあり、子たちから活発な発言がみられた。
▲子ども達の意見を吸い上げて、めあてを掲示するタイミングを遅らせてもよいのでは。



【追究する】・個人・トリオ学習。ノートに自分の考えを書き、その理由も書く。名前マグネットを黒板に貼る。

- ひな形があったので、自分の考えが書きやすかった。ノート指導もしっかりできていた。
- 選択肢があったので、どの子も考えを持ちやすく、すべて正解ということもあり安心して選んでいた。
- トリオは、話し合いをする上でちょうどいい人数だった。
- ▲ノートに記入すると、時間がかかってしまう。



【深める】・全体での話し合い。一人一人の意見を全体で共有する。考えが変わった人はネームカードを移動して色を変える。

- 考えが変わった人のマグネットが、黄色になったのは変化を見取りやすい。
-
- ▲「スイミーにしかできなかったこと」は、選択肢すべてに当てはまるので、「スイミーは、体が赤くてもきつと目になったと思う。」など、発問を変えてもよかった。
- ▲どの行動も大事なのか、どの行動が大事だったのか、少しぼやけてしまった。もう少し最後の話し合いに時間があると詰められたかもしれない。



【まとめる】・スイミーがしたことを通して、スイミーをどう思ったかまとめる。

- スイミーのスタンプは、子どもが書く意欲付けによかった。
- ▲「スイミーって〇〇だね。」のヒントが早すぎたのでは。

【講評より】

- ・主体的に学んでいくための、考える楽しさをもてる課題設定であった。
- ・課題やめあてを提示するタイミングは、選択肢を子どもに考えさせるなど検討するのもよい。
- ・「話し合い活動」は話すこと以上に聞くことが大切、ノート指導やひな形を作ることで自分の考えをしっかりと持つことができたから話し合いが持つことができた。
- ・特に低学年には、ノート指導を徹底することが大事。

【全体から】

マグネットの使用が、視覚的に友達の意見がわかりやすかった。マグネットの色の変化で思考の変化から指導する立場にとってもわかりやすかった。また、トリオ（3人）という話し合いが、『話し合いに参加しない人がいる』や『沈黙して話し合いにならない』ようなことにならず、低学年の発達段階にはちょうどよかった。

意見がばらけるような、発散型の発問であったが、最後は教師からの見通しを絞れるような発問もあり、多様な意見が出た上で学習の大切な学びをしっかりと押さえられたすっきりとした授業だった。